岷江入楚

玉鬱

才北二

特別
へ 12
4604
21

N12
4604
21

宮内省圖書寮

玉鬘

卅五歲

光君上洛別以来事

玉鬘君四歲時伴出京下向筑紫事　源氏卅七歲事

同君十歲時小弐事　源氏卅二歲時

同君廿許時肥後国大夫豆合玉鬘事

源氏卅三歲時以上いとの事　七年玉鬘廿二歲也

三月大夫豆来上京錦事

同月玉鬘君迎筑紫上洛事

故小弐小方兵ア君ア後ムれ伴事　九条取宿也

秋玉鬘君始八幡　并長谷ちまる

対長谷寺参詣石近君事

石近君帰京六条院　語中玉鬘事

源氏君之文ム玉鬘方事　有返事

同君上洛石近五条家事

九月日君渡六条院民町事　八花内方為使入事

小汀文庫

48 3690

其夜源氏玉鬘を対面玉鬘を人々方々に
歳暮賜装束を人々里々に玉鬘に末摘花に
末摘花居長寿を
和琴献上す

玉鬘

（以下）

（花散る）

（秘）

（以歌為巻名）

光君二十七歳の三月に
十二月に成りて
源氏の元服
十八歳源氏
河の辺
西京
肥後の国
肥後
十五歳
姫君の四十
少貳
十年
兵部の少輔
姫君
内裏
右近の
十二の年

[illegible]

年月[illegible]

[illegible]

此巻の始末[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘

此巻[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

此歌[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛平七年八月廿五日薨七十三　元慶二年閏十月廿日付

先達為陰し例

私世家強て用まゝ

右近に何の人とかなれと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右近の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 職員令曰 太宰府 少貳二人掌同大貳

秘 父君のたまはく

秘 父君のたまはく

秘 父君のたまはく

秘 業内にてもちゐるいかなる中にて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

私ども此あの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘かぶ二治ス

仁徳天皇四年始置諸國史　かぶ任限

勅然國守及云以四年為任限　仁明天皇承和元年七月

宮國始自巡前不避在千里以五年為任限

天平十五年十月辛卯始置鎮西府

寶字二年九月丁巳始以廿日為交替　國史

國司以四年為任限　四史

寶亀十一年八月庚申大宰任限增為五年

[illegible]

秘かぶ任限

私任限

秘かぶ任限

私任限

秘かぶ任限

私かぶの任の限なくしてさのみなりしや

秘任縁

かぶの任

こ乃者の十ゝ年ゝ

秘かぶ任限八年なれい九ゝ十ゝ年なれい九ゝ年

私任限ゝて二治ス　秘任限

年かぶ任五年四年なりしか

秘ゝかぶのいとま

ゝかぶのいとま

むゝの父者なしものゝ

をのこゝ二人ありよ

秘かぶのゝ

私かぶのゝ　一人ゝ世段ゝ　毛ゝ不ゝ治ゝ三ゝ

老ゝ云ゝ

わらこ乃けうを
花 おなの花をいつまでも
ほしがるものを
うの人乃ほとゝぎすもちれ人のかしらを行知錄
秘 むかつて乃ゆ文かゝ知錄乃中ふかあること
よいたうやあれを
少貴孔子乃事
われをもあるて年紀すること
人のをしらりて人のしらさに指ゆること
おの志物ひとのい
むかつ乃ゆゝおかるゝ
まさりこゝしとちいるゝ
きて行いつちいるゝ中ねゝ乃ゝ人を以ゝ
花 ゆすつゝるゝ 秘 わすつゝるゝ
わすつゝるゝ
人のもやゝるこゝ

花 やうこゝるいゝ人やゝ人わりゝけいゝ
ゆゝしゝゝゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ
しゝゝゝゝゝゝ
いゝゝゝゝゝゝゝゝ
むゝゝ乃ゝちいゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝ

秘 くわつこわれいなのうち弥へのうまいはと
しておりを作る
ず位てまたまた京へ出りたんのうたくこん
いんの内いむりりのうたとよんあへ
物行りしまうち　秘むりる
称ずまるとしるり

秘 年星心　又い年三月九月は第一ぬ　後世のいまの

河 年三月長奈海日若有善男子女人彼年三七戒忽晩
諸鄙不獲経勝福利其年有三七月所謂天
帝尺為其主願迴四天下検計衆生所作善悪其三月
廿日向南閻浮提二月起西曜耶尼三月行北欝四月有
東弗波提心天帝以正月五月九月巡向南州註記
衆生作業之
後撰集ナリ年三ちこうて女旦紙のうたにすりを
ちて作りしいちうて作りしうち　伝教大師

百とやいやうとをいうていのうちむかしとをまや
一位と扉星と
私一年の内ゆいこの月一月の内ゆいこの六斎ゆまうち善根
のうち裏道すると　ねずとうとわやうまうち
ザ くわうまうりの　むうりうと
ゆ乃ちむいゆいこのくよ
秘 位ちうん　年一勅日々
太史のくんとていこのくふ
河 太宰府一員二師　従大武少貳大監二人小監二人大典
少典大少令史　少武　叙爵のうち大史監ちうれ大監者正六位下少監者
従六位と称ず有軍監　軍監者東監者有西監ゆ
正 大監ハ正六位下相当の官なりと位大位下に叙ゆれ
秘 大史の監と称ず
監ハ太宰ノ大監心相当六位ちうたいの中監ち叙
爵ちうう叙爵ちうう大史監とうう

平太宰ノ監なりしの叙爵しまつる豈酒てもむ
ざいわく　一孔のりろうこう　孫ノ字ノ上ニ又孫ヒと
むくりけさんのちよ
あまくしさいるへのんをいてあへ
うちあるる女
うちのしたをうちあるとこ
いかしさうまあるとをを
むろうの云うまなりわとなりんとれて豈の子
尼よなりりんとれと
けえのつよおりをすてて尼よりんとりいとこと
うれをりつるうとく服投岡りうこ弟こ
こ乃ちものこと
世郎のよこ人をうしいて左豆豈いうこうこ
初りんこいうりいけ
秘　行ものいいわるそて日心会力ちへしこと
ふりいむちもう　秘　うこうこ

花　少武ものこ子こ人ありうこ左豆豈よりうこ
うり左京の光度かりのりりいりりやうこ
ちりこうそもるくあるれと
こうこうこ思いりめざれたのいうとうつう豈よりうこ
それて拾りしうえうさ海よりひるみりいりれ
ものくりうこ
秘　此二人のんこ
ちうこせうりうくらりうんや　けり注四　メうライ
豈よあくもあるいとあるいあうこうこと
世ようれで行のいうも
父かこなものしうあるまを
この人へ拾人ひりこのきこうれりうこいはさいこ
此はくしかこそいは豈りのうりい姫君のはさいこ
ありなとはこ人へのうて　秘　けり人へ左豆豈
はうこうこあてこそ
ちうそ年へのはつぶりのりよ孫のまそあへしこと

まめ[illegible]ぶ[illegible]ゆいりるは
せあ[illegible]りしてん
[illegible]人[illegible]
[illegible]
中のこれうこうぶこの
[illegible]
[illegible]
[illegible]退ノ字
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

は[illegible]
[illegible]
[illegible]

私秘抄　春宮ノ序ノ文ノ初ノ文ノ
[illegible]
[illegible]
今ハ[illegible]この歌乃ニ
大夫監が歌の子ニ[illegible]
[illegible]

所々の[illegible]
[illegible]
けさ人いたりたりし[illegible]
私大夫監の詞
私仏[illegible]　世間[illegible]　[illegible]
所々僧人　[illegible]　氣裝人　[illegible]　又般若人日夜[illegible]
竹取物語[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

所々[illegible]
[illegible]
私三月[illegible]

所々[illegible]
[illegible]
私[illegible]

所々祖母[illegible]
[illegible]
私つとやしとい大夫監ゐんをやしとと
こが歌乃いまさけば　私大夫監の詞
けるゐんをもさこと
[illegible]
[illegible]
私威[illegible]　[illegible]
[illegible]
[illegible]

少納言の君はとゝもんとゝかなとゝいひたるを
うちとけこうはくとゝいひたるを
おかしがりてゆるしたまへるなりけり
女房たちはいとゝ
いとゝきよらなんとゝ
賢のわらひいはさはぬ
秘　はなはだしかるべき
ちうぶよりおりてけるの
女房たちはいとゝさらにきよらにゆかしがりて
なりけり
そこに式部の姫はいかなるのつらにあるべき
ゝゝかなゝらぬ
秘　ちやうはいかなるべし
ちやうはいかなるべし
ちやうはいかなるべし

やはりなをよりひもろぎ（なるかぶとり）
この月ごろ月ごとの
秘 三月まことの月ごとに
のれんごろ
仙 三月春季の終ごと四季の終の月世俗祝儀ごと
なるべしとの事
季の終の月ごとに
変型 天 仙 或古老物語に或家始祖字合一男廣継於西府謀反以
昇堂蹶敬官軍成赤鏡見て人悉死ぬ肥前國松浦
郡鏡明神ごと 見或家に委 風土記曰昔者氣長足姫尊在此山
逢賢國敢而勅祈に天神地祇為我助福使用此鏡安置此
處其鏡即化為石見在山中因名曰鏡山新古載云作りし
ものなるべしこのかがみ肥後國へまゐり作りなるべ
とにつけて又をたてて作りなるべしとの事

あはいんとかくはかりなるべの事やうにしるべ
肥前國松浦郡鏡形に太宰少弐藤原廣継の是又鏡ごと
神功皇后の御鏡化して石となる作りなる鏡山と云ごと鏡
の形ありつるなるべしとの事 松浦宮司代々の
つたへに石は水に浸と同形のごとし作り出しなる鏡の形
二ぢ家あるべしとの事
秘 後の明神或家の文冊に尽くしたる廣継即天八所の
奥にあるべし神功皇后に新羅の戦ごと略ごと
秘 三ぢ北方のの文字天にしたがひ如此あり
このやうにいつくまりなりとの事 秘 隨分と自稱ごと
あれなるあるべし 此内仕りあるべとの事
秘 内仕にあるべ祝ごとあるべとの事
おなじ仕ごとのあるべしの事
もとなるべしの事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]羅至倫京使申云賊二艘（船大）後備者多檢舟脇
通殺入京云云
[illegible]の舟に妻子を乗の面気あり（河尾）
[illegible]寄ふ仮あり
[illegible]乃行[illegible]人
[illegible]海賊の舟[illegible]二艘[illegible]
[illegible]人と云ふ　行[illegible]きは鬼の（河鬼）
[illegible]三年行[illegible]人と
[illegible]
[illegible]
[illegible]

而今不家唯修造雜泊淪田泊長廢並住泊以下略之

[illegible]

[illegible]

[illegible]

此人漢より胡国を攻うしこ漢の軍破して多り胡国に走メリ
ナテ多年居ツキテ妻子ナトモ有ソ其後又漢より胡ノ
攻うしこ時此者共漢ハカリタリ思ヒテ胡国ニテ待タル
妻子ヲ捨テ出メレハ漢ノ方ハ久シク敵国ニ住シタル者ハ外
寡ナシメソ結句用ツナトシメソ老ヒ及ハカ荒世ノ住ナシタル
ホシモ難シ又都モ広ナサラ久シク在国シメシハ使モ有
ミキ事ニ比シメル

無アラ者ナ
其後不の胡地乃せいしを
因ヘシテこれ男をすすめのりしこ

ゑうこと
那ハふるはれいうしゑり
ゑ一ホ乃ハ乃ゑ
ものりをの中へよりうてまうんをわうゑく
ハりへうりうりなしめんわうしなる祢ハ

いうこと

ハいりくゑはるる
ハるホをとるれて教日の海をハ乃ちる角りけ未
のさはるるゑいんりうゑ
こ乃ハをを
いうに入ゑ　紙むりゑ　紙京へ　紙かみのちはるゑ
なるむゑ　ちはる　紙
ゑやしゑいちるゑ
ハのりはれるゑ
祢ゑなりのくまうり
紙三月ゑりゑハこてのりりにこれて祢ゑこ面白
ちこの外ゑのもハ　行如奥鼈之居陸似鳥雀之霞巣　古顔文　布文仁勘
旧故ハ荘子ノ魚ノ
ゑりゑ　紙古三ヲ上ゑ　ハ乃ちる別勅にもりて文ハ不及所ハ眺
鳩在河例ゑ　ゑ巣ホをはるゑれハ思ゑハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

飯加之外廣通橋之境也菩提寺殿弥陀堂

花 筥崎宮は筑前国に在

秘 神功皇后筑紫を攻れしとき

平 筥崎八幡宮 此所也 杜神 在肥後国菊池郡

又筑紫に生れ給ふ 杜神宮 筥崎宮とも只つけてもいふ

のゆゑなり

脾前ものの名所河の辺

八幡宮五師

花 八幡宮五師

貞観八年別当宗安と時に蓮如法師始補五師

安和二年別当貞善と時に以五師貞善法師始補大五師

花 村上所記に康保三年八月廿八日薬師寺三綱五師相率

奈陳外記 平 八幡宮五師五人有事 此一勅五師ハ寺法師ノ

日之五人事不悉八幡宮不限諸寺五師ハ寺

秘 瓦少貳の

こうつくしい仏乃四方まい

秘 菩薩を仏といつるいとゝ

花 長谷寺観音を仏に対して

菩薩なれと仏といつるゆゑ

秘 仏法繁昌して仏と一切

衆生を仏とみつる

秘 記別の由を及ぶ

秘 仏と云ふ

まをうん日本のうちにおわ

秘 源起之事

源起之長谷寺河内小豊山峯徳導聖人建立十一面観

世音菩薩利生之情也 神亀元年乙亥建立壹宇円

四年三月廿日供養 講師 行基菩薩

孝徳天皇皇帝 后 島須丈人 文武天皇 玄氏太子娘 敬の人ゆゑ

仙人の教へによりて東に向て日本国七谷寺観音を祈請し
たに芳年十二人の老僧来て東方より来りて
のつて礼拝を面に漂ひて急に容貌端正なり
因茲乾元三年丙申七月十八日侍女を引率して明州の
津よりそむきて十住の宮殿をたてまつる
又老後大唐入唐時七谷寺観音住吉明神に祈請して
野馬を乗り領もつて帰朝す 霊場なり 江談抄

[illegible]

[illegible]国の人[illegible]
又[illegible]徳道上人の聖朝安穏放氏経巻と祈願
玉鬘に放氏の人[illegible]
[illegible]
[illegible]徳道上人七谷寺建立時放氏房前に参寺助成[illegible]
聖朝安穏放氏経巻乃至法華経七巻[illegible]

[illegible]由見縁起 今玉鬘[illegible]放氏[illegible]
神亀元年二月廿三日勅使放房前卿参状下[illegible]
稲三千束[illegible]為長谷寺造仏新物[illegible]今案玉鬘[illegible]
放氏の弟[illegible]
の縁起[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
一代の願志[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

母とのは世よりの人なり
わらんこなりとなり
秘三ヤ　ちとせ　れり
くこ　わ　て　の
親　ら　し　な
為　と　を　て
こ　て　と　四　の　の
秘也　る　わ　と　み　の　内
内　諸市　人　れ　と　う　る　の　市　こ　て　市　こ　を　紙　四　義
月　こ　り　日　多　紀　こ　海　石　稲　市　と　へ　る　り　不　こ　て　る　の　諸
土　蛭　蛸　と　打　こ　る　こ　し　る　必
万　思　い　こ　い　寺　坊　と　て　こ　の　ち　た　よ　わ　し　こ　ぶ　れ
市　か　伊　と　れ　る　と　て　こ　市　て　す　こ　と　わ　ち　る　市　と
こ　る　こ　と　し　こ　の　る　こ　を　こ　と　市　り　け　い　致　る　の
て　け　の　わ　こ　や　わ　ん　な　こ　と
花　紀　元　慶　元　年　九　月　八　日　泰　也　参　る　寺　内　至　諸　市　合　交

易　即　明　灯　心　器　不　泰　即　堂　修　祇　頭　布　廿　鎮　即　明　三　万
灯　こ　今　業　功　閑　く　ち　る　人　い　て　市　ち　り　て　四　間　の
市　ち　と　日　ち　ち　る　市　け　功　後　の　心　わ　世　多　た　泰
記　わ　い　こ　て
わ　む　こ　み　く　こ　て　こ　ち　い
て　市　ち　る　四　り　る　行　て　こ　ち　る　す　こ　て　の　た　多
こ　の　の　し　一　人　な　る　か
ゆ　ち　や　り　ち　る　人　ち　て
ち　り　ち　る　ち　三　四　人　秘　奉　段　介
廿　三　四　人　　人　ミタリヨメリ　市　秘　臭　ち　る　人　心
女　房　わ　こ　こ　り　三　人　つ　い　た　ち　る　市　秘　ち　ミ　ト　有　一　月　ち
秘　こ　ん　な　り　と　わ　り　て　行　て　な　ち　こ　て　い　え　市　こ　ち
秘　此　秘　を　わ　や　ち　こ　り
花　わ　こ　り　り　三　人　い　姫　た　世　武　の　段　宮　世　参　山　三　人　こ　泰　内
内　つ　い　こ　ち　こ　ち　い　市　女　ち　る　中　ゆ　い　る　物　こ　ち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右とのゝ[illegible]の[illegible]

[illegible]

三条[illegible]

又[illegible]人[illegible]　は三条[illegible]

[illegible]

久[illegible]は三条いち[illegible]

[illegible]

[illegible]

平[illegible]

私の[illegible]

[illegible]

[illegible]

花三条のわりくていふの詞

秋ゆく春わすれぬ三条の花ざくらかな

作くしの國はるかなるこゝろもとゝ

三条の右大臣の方へ詠りて云詞

右中弁ゆうしいわりよきゆうきて

三条のいてゝこゝろのうちの海

俊綱ゞ紅のこゝろの色

映しゝ志をんなの裳ゝ也此詞を略計

花俊綱ゞうすき紅のうわの袴ゝ

ひゝらは小砂を云ゝ

をゝゝゝ河海の袴りのゆゝよきぬまれと

ゆゝゝわやをゝ

わゝゝいゝゝ

秋右大臣ゝ

三条のゝ海ゝ

行ゝゝのゝけれゝゝ

右大臣の三条ゝ詞

岸ゝをゝゝ

わゝゝわりをゝ

秋ゆく春

三条のゝ海ゝ

ゆゝゝ

秋右大臣の詞

花右大臣の三条ゝ

ゝゝゝ

ゝゝゝ

秋右大臣の詞

ゝゝゝ

ゝゝゝ

ゝゝゝ

[illegible]

（秘）月白上にて[illegible]

もりつりやつるるるるる[illegible]

[illegible]

（秘）[illegible]

老人いとう云い

（秘）[illegible]月白とそうてう

老老人いかに[illegible]後室こわる云い月白ら事

[illegible]

月白上にて[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏逢をりつん玉琴云ふけるるるるる[illegible]

[illegible]

[illegible]

一瞬

花

瞬

[illegible]

[illegible]

（秘）[illegible]

[illegible]

（秘）[illegible]

[illegible]

（秘）月白上にて[illegible]

[illegible]

三人[illegible]

花上にそうて三人や

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

この[illegible]に

秋[illegible]

中[illegible]

[illegible]月のひかりあらそひて

必一年の[illegible]

[illegible]

[illegible]月のひかりあらそひて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘

秘

秘

秘

[illegible]の[illegible]観音[illegible]
[illegible]
[illegible]

秘今内大臣の女うまれ給ふ事の定風を
乃妻うまれ給へ　秘　三条の内
あるうまれ給へ　秘　三条の内
花　筑紫にあるの西堂の子にもれ
大臣五つ三つ　三条の内
うまれ給へ　秘　三条の内
花　筑紫の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かとりの書　源氏書

ちとせの時　秘相童　秘藤壺女院

為代乃四とせきこえ

このひろ書　ちりの姫君

ちりへとこいとれをいつ　やれ人とかりあるとすれ

源氏書の〜作〜〜ま　を古とかるこ玉鬘書の

〜ちのかとりまこ　〜ことこのてこ

六〜そまりる〜つ〜り

太近のこ〜しまりと　〜ふこ

うのすこ乃文をい

花歌ひかの中文をい　古とこ〜そまつる市なれそ

知さこ〜をいり

姫君いまこ〜よかりまも　秘姫君八文

明石姫君いすこ　れを　たりまをとこ

文の位こ〜ちい　花紫と市を

紫上い谷別よさこ〜よ　〜〜〜

殿しもこ〜ありこ〜ありて　〜〜〜のち

源のこ〜紫いすれ　〜ありもと紫よ対〜〜

ほの〜計る　れいけ　〜〜の中　〜何〜〜の〜

ま〜よ〜ひ　〜〜〜　源氏紫と　〜れ〜〜

秘双し紫こ市をの　源氏勇をこ　〜〜〜

〜〜こ〜ありれこ

秘むこ〜いかこ　〜〜〜

花太とこ〜よ紫と　〜〜〜

君と見年れ　〜〜〜

ありこ〜初

〜〜〜こ〜〜〜

秘河海花こ　〜〜〜

河上藤とこ　〜〜〜

出〜〜〜

花桜綾三世こ頂殺百宝無畏光明三ミし栗仏の光明

眉間ちりとしみ見のかたちなりし食身となれ
多くの人のうつ三千中にかたちいとうつくしかりけり
人のかたちをとりかくしてとかくいまさうつくし
ふるをとりかくしてとかくいまさうつくし
人のうちにかくしてとかくいまさうつくし
列ふいあるうつくしかりけるとのりつ
ありけりとうかりけり　秘かりかくしかくし
うつくしかりけるとのりつくあやしうあるよ　秘殆
ありけるかくしかくしの方をとよりの旬に山むらさきをすれよの平仮
うつくしかりけるとのりつ
歌のもとにすれば　の歌畑
の歌
はること女のうつくしかりければ殆ばかりの感の命をうつくしの
はること女のうつくしかりければ
ありけるかくし男をみなをなかわりけそうつ
うつくしかりけるとのりつ
ありてしかるべきのうちすれば高よりまもりてこうの歌集
邪ばかりうつくしかりけるれ年をしらるれいしらる人々

なりて伝自しかるべき世界のやうなる
ありかりとうやうなるやうなる自ありけり
太近をさしていろ初
をのうつくしゆうさまりうつくしかりけるの添はりうつくしとも
ひろうあいいうつくしの添はりうつくしとも
ちかかりけるうつくしかりけるの添はりうつくしとも
秘はるうつくしかりけるの添はりうつくしとも
はるうつくしかりけるの添はりうつくしとも
はるうつくしかりけるの添はりうつくしとも
はるうつくしかりけるの添はりうつくしとも
はるうつくしかりけるの添はりうつくしとも
秘はるうつくしかりけるの添はりうつくしとも
はるうつくしかりけるの添はりうつくしとも
はるうつくしかりけるの添はりうつくしとも
はるうつくしかりけるの添はりうつくしとも
はるうつくしかりけるの添はりうつくしとも
はるうつくしかりけるの添はりうつくしとも
秘はるうつくしかりけるの添はりうつくしとも
はるうつくしかりけるの添はりうつくしとも
はるうつくしかりけるの添はりうつくしとも
はるうつくしかりけるの添はりうつくしとも
はるうつくしかりけるの添はりうつくしとも
はるうつくしかりけるの添はりうつくしとも

[illegible]

秋　右とう司を

源

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みかうし人いとびうちを
秘 ものいふかの中ひとを
花 かの中ひとりをいとしうとうまるれば
事 かりのひとを不よりて又事なり
くれば
観音入堂三日のんこと
秘 風谷
花 谷のつさうめといつかりく
秘 ものうの所乃ことを
私古寺録を 後拾遺
ことをとりのうのことを
人のこと
父母
ゆかりくものをかの
くのかの
秘 内大臣の作

かうこうまりのうちを
花 ものうの言れ現世に早ものうのこと
ものうの言れ
秘 ものうの言れ
長孝仕連
私不及川合早ものうこと
ことをとりのみよやうの不
秘 寺ものうこと
ものうこと
昔ゆえ可くわりしまりの
行ことをいりしたる
秘 六条と九条と行ちる
花 ものうの九条の家へつる右と六条院とさわりれい
ものをとりのより右と家いましはめをたたより
このかをもきこゆ 秘 伯耆より還向陵へ
ものうのかつうつ
秘 ものうの

秘 二条院御産のとき　平　二条院の母うの御

[illegible]

秋源の[illegible]　[illegible]

[illegible]

秋[illegible]

秋源の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 右とう門

秘 源ノ門

右とう門

秘 源ノ門

秘 紫上ノ門

秘 源ノ門

右近ノ門

秘 源ノ門

秘 右近ノ門

秘 源ノ門

秘 源ノ門

秘 源ノ門

秘 源ノ門

秘 源ノ門

秘 右とう門

玉鬘の父内大臣は男女若くよりわれはそれの
中に数なりてとくもまもれるに人に劣りかりとも
われはなほしきと　源氏の御子の中にかりとも
なりにたるよりん　秋　太近の人
太とかの御子源氏とかの
身れはいつくなりのしるしとの仮なりてもちもの
内大臣のくにもとの仮なりてもちもの
なりもしれは源氏源氏とかとも
つくるもるあれうと
源　五もの人をもつ
秋　夕貌とかしかくあるへき源ゆへと太をもも
こうしてと
源　今ものもも
夕貌とかをもしかくもるの花のまもり
つくもりもりもるもりもるもの　秋　源の何

夕貌のまもりの咎よりいるもてうもとのもも
ありもこのうの御子もるれを後くもの
あれももるるもりけるもの　夕貌はまもり
つくもつくもつくもつくもの中
秋　人のあもくけるもかふ夕貌とかの人のもと
わの人のもかとかもつくもつくい
秋　花散里　末摘花のもの
太をもくもりもの人
花　太とかりもと夕貌のとれるみとかもの人の
あのさこもりもとあり
ももりのあり
むりももむくもりれてかいるもへしと
四もくもこ
秋　六条院よりむくもんとそのもの末摘のもこりれも
乃末摘花の
これもりゆくもかはりとりまもの夢の松

六番ふしのこと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

心ゝ身安穏ゝたち出ぬ新よのみちは
ゆきゝまゝ文原ゝ
のゆくゝ物ゝ
もゝのゝもゝつゝ
教ゝ
祝ゝ同つゝ祥勝の方ゝ陰陽ゝ義堂ゝ堪志ゝ
早ゝ
てゝけるゝゝ
必ゝ
はゝゝ行ゝ
四ゝ
原の四ゝ角ゝ行ゝ
もゝみゝつゝ
もゝのゝ
礼ゝ
祝ゝ
はゝゝ
の四方

げゝゝゝゝ
行 祝儀 又見儀
すゝゝゝ
中ゝの行ゝ
六ゝ院のゝ
ゝ寸殿ゝ
ゝゝゝ
祝中ゝの四方ゝ
つゝゝ
長 中ゝゝゝ
すゝゝゝ
行 礼記曰婦人髪帯麻ゝ房 住吉房中則西房ゝ天子 諸侯 有左右房ゝ
紫ゝ必西ゝ
文殿仙院ゝ
ゝゝ
祝ゝ

花　うしとこのまちに花ぞ空の行れすちこの西の対に
文殿もあるをあるよしつかまつりてもうつの君を住ま
つくりかりに法あてうた
あひすみしのひやうこ
秘　花散里をあひ住ましうしこと
うへふしつまさのわうこ　昔の
秘　夕顔と二ものを見へ見人今うしうる
うしみさうあり
夕顔と二ものをうつのあるまつふとよのうまふと
わりなしや　秘　源の初　昔の恨るり
世よあるへのうしてや
世をうるへ人おもひを何とつまりくしたるこり
せんけりうしとうん

人おいうしに　昔を別れてのまとうる

つとわるよ　夕顔の二ものをうる出るうる海
人のうへうしてわるうこ
秘　源氏の人おあるまふ人のうへうしひるあるこ
つとうるあ中し
秘　うる中しうるあ中りうる　暑しうる女うる道
よしいうる海乃つううを
花　人うるうこ　女家のうつを　西のを
かうこ出るを人のうつうきうこ人を
つ夕顔うふつ　つうる人
事　源氏源氏の出るよのの　人のうつうこ　源氏の知へ
のおしのれうこうるこ　うるこ　珍しすこ　出るこ中
こいうる中うへうこ　出るこ中
をうん中しるの世ふ　女人うる
うるうるうるうる
秘　源氏うへうこ　うるこうつ出
うるのおうる

秋月院別のもとにおくられしてんそうの世之人の
ようすをんなの女の子を貪をして強くうるまと
ゆうもうをもわるもの二つの俗分好色なるをもてはやされ
つゝ女の取なをんなるとはの男のようをうりのこと
わるもれたるさうの
秋月もこの中より久島と不可なるもの
秋月久島とのんさ海物やうりよ元りこと二面のわれ
世ようもうもの　久島ノ
小のもちよわず　秋月　明石
花大とのんかとの久島といま世よ物れてゆんこのかりて
かこのいまつさうしこの河ミてこうの海岸者さまの
小のもちに女よりわいの町とあり小の乳ケこう西
もくしこうかうこうさすもち
久島の秋月のものこさこうの物のこと
ようこうりあのこ
ありてこうくく

大やしよけこうこうやうこうのやれんの久島の海物
さうこうこわりこの海分の
秋月こうの河岸こと明石
花花の海面者の久島ら
かこうの凡こうもとの
こと三こうこ所りと行
行小のかこうこうこうさ
久島ノんて行明石こと海こうれ
又こうりこと行りこ
秋月の姫者の女こ
こうの物て
すこうくくいこうこ
秋月遠ありこうこ
花すこくくこ遠こう
かこうりこうこ行
ひこうりこまこ

にまうでまゐりていとのたいし
秘 倭よりたまはりたいしかたに
いちやうかとしてのはし
伊勢物語 或市女商人
花市女商人とこの詞うたよりは
白髪まじりなるあを市に市女のこゝろなりうるさい
上京今の世にしこつつ人をかとあるは商人をかとあるは
りうとは花なりつゝすなそ中ちすることはりなり
わすれぐ
将て来るこ 出来てゐるし
その人乃こゝろとしも
秘 むろの族姓をいはるゝこと
十月 秘 一年 十月
平 十月一年 十月一日
かゝるけんゝのはるゝな
秘 花宴里心
かゝるはるこゝろ花宴里心はるけるこ
はるれとゝいひ人 秘 源ノ詞
物うらしいて
物思ひしらしるる
人きしつてうん
女 よりうまく
秘 年ゝけるこ今年もうゝ十歳 日本 礼記内則
女子十年不出
礼記ニハ年人ニ嫁シタル婦トミヘ
十有五年而笄
ず礼記ニハ年人ニ嫁シタル婦トミヘ
ゆうゝ花ゆまく姫と老姫と云
ゆうゝ花ゆまく姫
ゆうゝ
平 ゆうゝにかりまく姫
秘 ゆうゝにかりまくのをを
一月

行平なりひらの中納言

秋 行平なりひらの中納言

わかれをしまのうらなれぬれば
しほたれつつ
なみのうへにうかぶ
月をみてなほ
なかめやるかな

秋 行平なりひらの中納言

あまのかるもにすむつきをみても

[illegible]

[illegible]の女房[illegible]の公中より

[illegible]戸を

源氏のかくしそへ入れつる戸なり

たとりいそぎそへ

秋 妻戸なとなりしし 平日

河 移殺し [illegible]なるけなり

この戸[illegible]入れつる人い

年[illegible]

秋 源 今歌[illegible]

火[illegible]

少のわもりの[illegible]

[illegible]

[illegible]

いまもそうひ[illegible]

秋 [illegible]

源

太近[illegible]

秋 灯[illegible]灯[illegible]

[illegible]

秋 [illegible]

河 [illegible]

[illegible]

秋 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

姪子の父母とすてられ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋大文殿の事

一年のうちにけがれを
忌はばいと氣毒　一年
寿命縮まる　かの人のうち
何人かのうちにうつ　いつ
或はいとはしとなる　僧侶
ことに人のうちにあるとき
忌節をもちいるとき
行事なりとかまして行たり
もうつの方別しくあり
本殿外しあり
秋本殿外し家日よ　源の宮ひつ
花本殿外し西対姫宮の御家日
わかれしつくらし　ふち
本殿外のこと
いそがりにて三日ばかり
秋は外のいりうめ中に出入りとなる事
なり

人をもうつしとて行るの
事
年本殿外春分あり
家にて　本殿
たくの方に四方の三角の
本殿外をもうつ方の家日
市七日こほりて　源の
年の方に　ひの
もうつのにて　ひ
しあつて

かりとわかるひとの
ものやいとはしく
行るまでと　祝
秋　祝
もとも　祝
いとかりくるゆ

秘第二（下略）

すこれはまなくらどりとも

れきあくらとい家員あるいつたもりくやな

はりしきあくらとすまるでさあるう

ひあるまさせ物めつる乳ひ

世のもの四方うそ祠をくれ

うるすちもくいもくれく

やうはるいたやはし世のとたるう

世ろあうるあるい

秘はるとやの方へうたいめつる

ちるのうりまれるはもう

は時来うあるうるるるる

のり年形秘はうはあるるるる男女紫宋ら

秘板門とはうはるるるる昔いうるるるるるるる

はるとびり　秘即の字ら

うるるるるて　はるる

いれはるるる　はるう原へのの通

きるきまう人の

必人うはるうるるるるるるるのの通

さはるうる

その人のはるり仰全るる通

つれるて人のうる　原の通

るるるるるて人のうる原のの通

るいれるるるるる

秘るるは原るるいれるるる

秘秘秘原のるるのるるるるれるるれるれるれる

るるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

秘秘秘

[illegible]

花 貞観政要　唐太宗嘗謂侍臣曰以銅為鏡可以正衣冠以古為鏡可以知興替以人為鏡可為明得失朕常保此三鏡以防己過今魏徵徂逝遂亡一鏡矣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘　山白うす　平　はなうさ海
柳のうす　白　わうす
花　桜　白　白くうす　平　白しうす
平　わうす　仏　金　うす　うす　白　うす
人　仏　白　白　白　平　白しうす
よわうす　白　白　白　白　白　白　白　白
梅　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白
白　白　白　白　白　白　白　白　白　白

紅非制限 古冊 ぬんまち

私ノ花ノ事ヲ用ル

ぬるし日き所人つる

秘 三月元日の日書

けふまでけるうんの日

秘 紫上ノ似ものそこ所つる

花 なのくきれるそこて似合ものとこ

ふしんなるまて

世に使の祿なとあること

あるつる事いうへも

赤つむ花の古形なるんさ海をもり

山ふるらきの神ちいるすけ 秘 使ノ祿

花 神ちのちけるとふ

なるるつかなりといつり

いてやるゆるい中りまて

花 柳のるの文の所

秘 文ノ初

私ノ花ノ事いて源のもとにたるこのこ花をもるにたるま

ひ数よりいてるるるるるる

赤橋花 まちるいうるれるる

九いるるて西ひ付いうるむ

私源ういれるを恨うて

なるまていうさし恨の家を

ひてのもちるふあるるわ

ひあるるる者にるるる

いつれも左根ること

花 梅ゑまるあるるて三四人

と京あるる奥の家あるる

あるるるるるいるるる

なりつる

秘 奥字ヒ上古ヒ あまりるるる

いるるるるるるる

源ノ赤橋の文所るるいるる

赤橋の上の所の者ヒるる

奥ふるる奥ふる

奥ふる

海

平日

花 梅ゑまるあるるて三四人

と京あるる奥の家あるる

あるるるるるいるるる

なりつる

秘 奥字ヒ上古ヒ あまりるるる

いるるるるるるる

源ノ赤橋の文所るるいるる

又何ゆゑかんと　秘　源のは亀谷とわりなれと味
いうていうてうきうゆを　はいうること
源ノはんこ
味ノうこ　秘　此源あまりよ　黒ゆ
仮ことやくまりいる
やうよわりるこうりうりはいうき　赤のつうこ
さうこうりてうこいわくこ　わりたこうりきまこう
琴末橋のはうこ　乃ちこと　秘　円
私此源なしの左用のゆ　れるまりこばさうちとさう
しこと云こ　源ん　りてうこいわりと称こ
きりうきまこ　秘　源りまこ
琴まりこ　みりうきこ　源こ角こ　走こ　末橋こ　呼して
源氏のりうこ
こぶいの乃ちうこい
何　古代云後　又古称れ

加こ　琴こ　わりこうこ　ゆうこ　ゆうこ　ゆうこ　称
花　末橋の云うこ　衣云うこの　れ　後　こうこ　わりつこ
末橋乃琴こ　生　琴うこ　衣　後　わりこ　ゆこ　好　こ　ゆこ
秘　ゆこ　橋　いうこ　衣　こ　いうこ　わりこ　こ　こ　こ　こ
云うこ　ゆうこ

まりうこ　秘　源乃こ　れこ　此　れこ　れこ　れこ　こ　こ　れ
いまりうこ　こ　こ　ゆこ　れ　れこ　れこ　れこ　こ　こ　れ
琴ゆうこ　行こ　こ　れこ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ
人のりりこ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ
こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ
秘　れ　人　会　の　時　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ
こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ
琴　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ
こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
口づゝて細こゝむすちはゆ　[illegible]
[illegible]
白紙屋紙の名ゝ
秘蓬生乃者ノ[illegible]
花常陸文い末病の又[illegible]
[illegible]
[illegible]
秘源へまいりてもりてしし
わのぶいるいとおそやすいさ[illegible]
白有五家髄脳　又濱成式に巻七病　喜撰式に出病
孫姫髄脳有八病[illegible]
[illegible]
源の生[illegible]
むりしくかしれ[illegible]
[illegible]

花[illegible]
[illegible]
白[illegible]
きりの
白動[illegible]
[illegible]
[illegible]
秘[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
秘[illegible]
[illegible]
花明石の姫君
常陸文のうゝ[illegible]

[illegible]

和哥の髄脳などの所にてはかくれ[illegible]

[illegible]

[illegible]

姫君の所にてはかくれ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]